

医学教育 2020, 51 (5): 537~540

特集 コロナ禍における医療人育成

【1 歯学領域】

## 1-6 コロナ禍での研究室配属科目における取り組み

鬼塚 千絵\* 木尾 哲朗\*

### はじめに

我々が令和2年(2020年)前期に携わったのは、歯学科2年生を対象とした研究室配属である。

本学の研究室配属は、学生が研究に対する理解を深め、卒業コンピテンシーにあるリサーチマインドを持った歯科医師になることを目的とし、平成9年度より16年度まで基礎配属科目として4年次前期に開講された。その後、カリキュラム編成にともない、平成18年度から29年度までは名称を研究室配属科目に変え、5年次前期に4単位必修科目として実施していた。さらに、カリキュラム改編のため平成27年度から2年次の前期となり、30コマ(90分×30回)の枠組みで実施されている。

我々の研究室は、平成24年度より毎年1名から4名の学生を受け入れている。

昨年11月上旬に、講義の一環として1年次の学生に対して、研究室配属説明会が開催され、研究室の受け入れ予定の教員が講義室にてそれぞれの研究テーマについて説明を行った。研究テーマについて興味を持った学生は11月中旬に教員へ個別に連絡し、アポイントを取り、研究室への訪問を行った。学生はテーマへの理解を深めた後に希望する研究室の選択をし、最終的に研究室配属運営部会が12月に学生の配属先を決定した。

パンデミック/緊急事態宣言下でどのような状況であったか

令和2年度は、4月6日(月)から研究室配属が開始される予定であったが、それに先がけて、前期の講義開始が遅れると大学から通知があった。その後、対面では避ける旨の通知があった。表1にその経過を示す。

### 昨年度までとコロナ禍での研究室配属の相違

昨年までは、4月中に学生の考える素朴な疑問を言語化し、ディスカッションを通じてリサーチクエスチョンを導き出し、その後研究計画を立案していた。5月から6月に実現可能な範囲で調査や分析を実施し、7月上旬に研究結果および考察をまとめていた。7月下旬には抄録及び発表用ポスター作成し、その後学生は夏季休暇に入っていた。8月下旬までに、筆者が学生とメールで連絡を取り、抄録の加筆修正を行い、事務局へ提出していた。9月下旬のポスター発表会に向けて、夏季休暇の最後の週に学生は研究室を訪れ、ポスター印刷と発表用原稿およびプレゼンテーションの練習を行っていた。

COVID-19の影響により、令和2年度は開始時に配属された学生4人が対面で集合する機会を設けることができず、学生同士でディスカッションことができなかつたため、筆者が研究テーマ3つを学生にメールで提示し、その中で興味を持ち、自宅で分析できそうな課題について、学生から希望や意見を返信してもらうことから開始した。

5月以降、徐々にMicrosoft Teams(以下、Teams)の使い方について筆者自身の習熟が進んだので、投稿欄にコメントを記入し、ファイルをアップし、工夫しながら学生の意見を聞くことにした。この時点で学生4人に自宅でのWi-Fi環境についても、投稿欄で聞きながら、どのテーマを選択するのか尋ねた。先行文献については各自が調べ、その結果をTeamsにアップすることで情報の共有をはかった。しかし、メールやTeamsの投稿欄を通じて全員の意見を聴取することにタイムラグが生じたため、会議形式で全員と話して、研究テーマを選択することにした。また、研究の役割分担や今後の予定についての話し合い、検討についてもTeamsの会議の場で行った。

\* 九州歯科大学口腔機能学講座 総合診療学分野